



▲▶アーセナル社製新型モデル・アーセナルAR-M1アサルト・ライフル。ブルガリアのアーセナル社は、旧ソビエト原案のカラシニコフ系のアサルト・ライフルを製作している。しかし、自由化後ロシアがカラシニコフ・アサルト・ライフルのロイヤリティーを要求し始めたためAK47の名称をやめ、アーセナルAR-M1アサルト・ライフルの名称で輸出し始めた。ディフェンダー2006でアーセナル社は新型を発表した。新型といっても基本的な構造に変わりはなく、AK47とまったく同一構造を持つ。変更点は黒色プラスチックのハンドガード部分先端にあり、この部分の左右と下面にピカティニー・レールが装備されたところだ。またマズル部分にスリット付きのマズル・コンベンセイターが装備された。



▲▶アーセナル社製モデルM6 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャー付きモデルAR-M1Fアサルト・ライフル。AR-M1Fアサルト・ライフルは、ブルガリアで改良された5.56mm×45口径のAK47(カラシニコフ)アサルト・ライフルの発展型だ。ショルダー・ストックの形状に改良が加えられサイド・スイング・タイプに改められた。またマズル部分には、近代化されたスリット入りの独自のマズル・コンベンセイターが装備されている。これらはロシア政府の方針転換で各国にパテント・ロイヤリティーを請求する方針が打ち出されたための改良だ。ブルガリアは最大限の改良や改造を加え、外見をオリジナルと変えることでロイヤリティーの支払いを軽減しようとしていると伝えられる。



▼▶アーセナル社製モデルM4 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャー付きモデルAR-M1アサルト・ライフル。AR-M1アサルト・ライフルは、ブルガリアで改良された5.56mm×45口径のAK47(カラシニコフ)アサルト・ライフルの発展型だ。黒色プラスチック製ショルダー・ストックの形状の一部に改良が加えられ、マズル部分に近代化されたスリット入りの独自のマズル・コンベンセイターが装備された。バレル下方に装備されているモデルM4 UBGLアッドオン・グレネード・ランチャーはブルガリアで設計されたもので、40mm NATOスタンダードのグレネードを発射できる。UBGLアッドオン・グレネード・ランチャーはM1からM6まで6型が製作されているが、ライフルへの装着部分が異なるものの、基本的なメカニズムは同一だ。アメリカのM203に似た構造で、バレルを前方にスライドさせてグレネードを装填する。



▼実機展示はなかったが、イランのDIO(ディフェンス・インダストリーズ・オーガニゼーション)社が公開した新型アサルト・ライフルが、モデルG3A3インブループド・ブルバップ・バージョンだ。G3A3インブループド・ブルバップ・バージョンは、ヘッケラー&コッホ社の技術移転でモデルG3A3アサルト・ライフルを製造しているヤングファザルサジが開発したブルバップ・タイプのアサルト・ライフルだ。G3A3インブループド・ブルバップ・バージョンは、そのモデル名が示すようにH&K原案のG3A3アサルト・ライフルをブルバップ・タイプに改造したものだ。実機が展示されなかったため詳細は不明だが、ローラー・ロックがそのまま組み込まれているという。



▼アーセナル社製モデル・アーセナルMG-1MS汎用マシンガン。アーセナルMG-1MS汎用マシンガンは、ブルガリアのアーセナル社が製造している旧ソビエト原案のPKM(カラシニコフ汎用マシンガン改)のコピー製品だ。ロシアは自由化後、カラシニコフ原案の小火器のライセンス・ロイ

ヤリティーを請求するように方針を転換した。そこでアーセナル社はショルダー・ストックのデザインを一部変更し、黒色プラスチック製として、製品名もアーセナルMG-1MS汎用マシンガンに変更した。さらに一部の製品のバレル部分には改良が加えられて、表面にフルートと細かいカットが入られて表面積を増加させ、冷却効果を増大させた。